

## ■ 全体講評

2025 春 IT ストラテジスト試験・全国統一公開模試の午後 I 試験は、問 1 が情報システムの再構築、問 2 が小中学校連携に関連したシステム統合、問 3 が自治体における書かない窓口の導入について出題されました。問 1 を選択した人が 56%、問 2 が 91%、問 3 が 53%ほどでした。いずれも標準的なレベルの問題だったと思われるのですが、平均点はあまり伸びませんでした。問 2 の平均点が最も高くなり、次いで、問 1、問 3 の順でした。

### 問1 情報システムの再構築

#### 【採点基準】

##### [設問1]

- (1) 中期経営計画の「③間接業務の削減や効率化による収益性の改善」を実現するために導入しようとしているシステム(二つ)は、解答例と同じであれば各 3 点(順不同)、それ以外の解答は 0 点としました。
- (2) 情報系業務でクラウド型の統合アプリケーションサービスを利用することで、どのようなメリットが考えられるか(システム管理者面から二つ、利用者面から二つ)は、解答例と同趣旨の解答であれば各 5 点(順不同)、不十分な記述や余計な記述は 2 点減点、的外れな解答は 0 点としました。
- (3) IT インフラについて、インターネット回線の増速と可用性の向上を図るのはなぜか(「増速」と「可用性の向上」の観点について答える)は、解答例と同趣旨の解答であれば各 5 点、不十分な記述や余計な記述は 2 点減点、的外れな解答は 0 点としました。

##### [設問2]

- (1) 本文中の下線①について、製品情報管理システムは、クラウドサービス(IaaS)上で稼働し、同じくクラウドサービス上に構築した仮想デスクトップに対して、社内のシンクライアント専用 PC から接続する方式にした理由は、解答例と同趣旨の解答であれば 6 点、不十分な記述や余計な記述は 3 点減点、的外れな解答は 0 点としました。
- (2) 本文中の下線②について、N 社独自機能のアドオン(追加開発)を可能な限り少なくしたい理由(二つ)は、解答例どおりであれば各 4 点(順不同)、不十分な記述や余計な記述は 2 点減点、的外れな解答は 0 点としました。

## 【講評】

画像処理モジュールの中堅メーカーの情報システムの再構築に関する出題です。設問 1 (2)や設問 2(2)の一部がやや難と思われますが、それ以外の設問は標準的なレベルだったのではないのでしょうか。最初の問題でしたが、選択割合は 2 番目に多くなりました。平均点は問 1 よりも若干低くなりました。

設問 1 の(1) 中期経営計画の③を実現するために導入しようとしているシステムは、二つとも比較的よく解答できていましたが、的外れな解答もけっこう見られました。(2) 情報系業務でクラウド型の統合アプリケーションサービスを利用することで得られるメリットは、システム管理者面については、二つのうち一つは比較的よく解答できていましたが、もう一つは「メールサーバ」について触れた解答がほとんどありませんでした。利用者面からのメリットは、二つとも比較的よく解答できていました。(3) IT インフラについて、なぜインターネット回線の増速と可用性の向上を図るのかは、増速については比較的よく解答できていましたが、「クラウド」に関する記述が抜けた解答も少なからず見られました。可用性の向上は、的外れな解答が多く、正答率はあまり高くなりませんでした。

設問 2 の(1) 製品情報管理システムを、社内のシンクライアント専用 PC から接続する方式にした理由は、正答率が高かったです。(2) N 社独自機能のアドオンを可能な限り少なくしたい理由は、二つのうち一つは比較的よく解答できていましたが、もう一つは「バージョンアップ」について触れた解答がほとんどありませんでした。

### 問2 小中学校連携に関連したシステム統合

#### 【採点基準】

##### [設問1]

- (1) B 町の基本方針から考えた、成績管理における現状の問題点は、解答例と同趣旨の解答であれば 6 点、不十分な記述や余計な記述は 3 点減点、的外れな解答は 0 点としました。
- (2) 成績管理システムを統合することによって、どのようなことが実現できるかは、解答例と同趣旨の解答であれば 6 点、不十分な記述や余計な記述は 3 点減点、的外れな解答は 0 点としました。
- (3) 成績管理システムと通知表作成を連携することによる、小学校における教員側のメリット(理由も含める)と児童等側のメリットは、解答例と同趣旨の解答であれば各 5 点、不十分な記述や余計な記述

は2点減点、的外れな解答は0点としました。

#### 【設問2】

- (1) 本文中の下線①「ある情報」について、効率的にシステム化を検討する上で活用すべき情報は、解答例と同趣旨の解答であれば6点、不十分な記述や余計な記述は3点減点、的外れな解答は0点としました。
- (2) 本文中の下線②「必須となる機能が複数存在」について、導入すれば教員や保護者からの要望にも対応できるが、それぞれに対応する必須となる機能は、解答例と同趣旨の解答であれば各6点、不十分な記述や余計な記述は3点減点、的外れな解答は0点としました。

#### 【設問3】

- (1) G中学校のホームページの運用上の問題点は、解答例と同趣旨の解答であれば5点、不十分な記述や余計な記述は2点減点、的外れな解答は0点としました。
- (2) B町の方針を踏まえた上で、本文中の下線③の必要な情報とは何かは、解答例と同趣旨の解答であれば5点、不十分な記述や余計な記述は2点減点、的外れな解答は0点としました。

#### 【講評】

小中学校連携に関連したシステム統合に関する出題です。設問1(2)や設問3(2)がやや難と思われるかもしれませんが、それ以外の設問は標準的なレベル又は平易だったと思います。選択割合、平均点とも3問中で最も高くなりました。

設問1の(1)成績管理における現状の問題点は、比較的よく解答できていましたが、的外れな解答も見られました。(2)成績管理システムを統合することによって、どのようなことが実現できるかは、的外れな解答が少なからず見られたものの、正答率は比較的高かったです。(3)成績管理システムと通知表作成を連携することによる、小学校における教員側と児童等側のメリットは、教員側については比較的よく解答できていましたが、「通知表の一部の情報が自動的に反映」の部分(理由)が抜けた解答もけっこう見られました。児童等側は、比較的よく解答できていましたが、「成績の経緯」について書いた解答が大部分でした。

設問2の(1)下線①について、効率的にシステム化を検討する上で活用すべき情報は、正答率は比較的高かったです。(2)下線②について、導入すれば教員や保護者からの要望にも対応できるが、それぞれに対応する必須となる機能は、二つとも比較的よく解答できていましたが、教員側と保護者側が逆になっている解答もけっこう見

られました。

設問3の(1)G中学校のホームページの運用上の問題点は、よく解答できていました。(2)B町の方針を踏まえた上で、本文中の下線③の必要な情報とは何かは、的外れな解答が多く、正答率はあまり高くありませんでした。

### 問3 自治体における書かない窓口の導入

#### 【採点基準】

#### 【設問1】

〔DX推進の前提〕について、DX推進課長がC市で書かない窓口を検討するに当たって、改革本部から求められていること(進め方とPT立上げの観点から答える)は、解答例と同趣旨の解答であれば、進め方は5点、PT立上げは6点、不十分な記述や余計な記述は、進め方については2点減点、PT立上げは3点減点、的外れな解答は0点としました。

#### 【設問2】

〔PTメンバー募集後の状況〕について、DX推進課長が、本文中の下線①「一定の条件」について提言したと思われる招集メンバーの条件(役職及び在職年数以外の点から答える)は、解答例と同趣旨の解答であれば8点、不十分な記述や余計な記述は4点減点、的外れな解答は0点としました。

#### 【設問3】

- (1) 導入するモデル業務手続の候補のうち、「市民課の証明書発行手続」が選定されなかった理由(業務課へのヒアリング内容を踏まえる)は、解答例と同趣旨の解答であれば5点、不十分な記述や余計な記述は2点減点、的外れな解答は0点としました。
- (2) DX推進課長が、導入するモデル業務手続を本文中の下線②「住民票異動手続」とした理由(C市役所の背景を踏まえる)は、解答例と同趣旨の解答であれば8点とし、ここは「関連業務への波及効果が見込め、…」としても許容としました。不十分な記述や余計な記述は4点減点、的外れな解答は0点としました。
- (3) 仮運用開始の見込みを連絡した後で、トップダウンでの指示が必要と考えたDX推進課長が行った、下線③での必要な対応は、解答例と同趣旨の解答であれば8点、不十分な記述や余計な記述は4点減点、的外れな解答は0点としました。

#### 【設問4】

〔仮運用開始後の問題とその対応〕について、現場の意見を踏まえた、下線④「支援入力前の確認作業」に関して必要と思われる確認作業の内容は、解答例と

同趣旨の解答であれば 10 点、不十分な記述や余計な記述は 5 点減点、的外れな解答は 0 点としました。

#### 【講評】

自治体における書かない窓口の導入に関する出題です。設問 4 がやや難と思われますが、それ以外の設問は標準レベルだったと思います。平均点は他の 2 間に比べかなり低くなりました。

設問 1 の DX 推進課長が C 市で書かない窓口を検討するに当たって、改革本部から求められていることは、進め方については、D 氏の「成功事例と失敗事例」に触れていない解答（不十分な記述）が数多く見られました。PT 立上げは、説明が不十分な解答がけっこう見られたものの、比較的よく解答できていました。

設問 2 の DX 推進課長が、下線①について提言したと思われる招集メンバーの条件は、「異動対象」に触れていない不十分な解答がほとんどでした。

設問 3(1)の導入するモデル業務手続の候補のうち、「市民課の証明書発行手続」が選定されなかった理由は、「業務フロー」について触れていない解答が多く、部分点をとる解答が大部分でした。(2) DX 推進課長が、導入するモデル業務手続を下線②「住民票異動手続」とした理由は、前半部分は比較的よく解答できていたが（「関連業務への波及効果が見込める」などとする解答）、後半の「書かない窓口導入」について説明が不十分な解答が多く、正答率はあまり高くありませんでした（内容次第で部分点としました）。(3) 仮運用開始の見込みを連絡した後で、トップダウンでの指示が必要と考えた DX 推進課長が行った、下線③での必要な対応は、「C 市長」からの指示又は協力依頼に関する記述がない解答が多く、あまり十分に解答できていませんでした。

設問 4 の現場の意見を踏まえた、下線④「支援入力前の確認作業」に関して必要と思われる確認作業の内容は、マイナンバーカードの本人確認を行うという解答は多かったものの、顔写真での本人確認まで踏み込んだ解答はほとんどありませんでした。また、暗証番号の確認を行うとする解答も少なからず見られました。

以上